

「終わりよければ」いせの会 会報39

平成23年11月3日版

電話 05966・63・5226
ファクス 05966・63・5236

「伊勢のホスピス、市民が考えよう」から

9月10日の講演から2ヶ月が経とうとしています。市民が成すべき沢山の課題が明らかになり、それから2回の例会をしましたが、次のステップをどうしようか正直に言えば、たまたまんでいるような具合です。

アンケートから、課題を例示します。

- 在宅が良いのは経験者は分かるが、多数の一般人は病院と在宅の間で戸惑う。
- この地域のホスピスの実情を知りたい
- 医療者と市民の間の感覚のギャップをどう埋めるのか、さらに知りたい
- こんな話し合いの機会が欲しいと実感

講演で聴いた岡崎の活動(前号でも記載)

- 市民が主体で継続して実施
- 徐々に医療者との連携を作り上げる
- 街の中からの情報発信として定着
- 定期的に期間を決めて、情報展を開催

私たちは今、何を成すべきでしょうか？

私(遠藤)が思うこと。

- いせの会と「話し合いの場」は必要
↓ 定例会を保持。街の相談室の役割も
- 情報発信を街の中から、公開の場で
↓ 公開講座、パネル展示を地道に
- 情報を形にして伝える
↓ 今までの資料は大事、調査活動も

定例会のご案内 第二水曜夜

いせ在宅医療クリニック隣 縁の家

11月 9日(夜7時〜8時半)

話題： (まずは、皆様から)

● 前述の課題を、お考え下さい

● 少し見えてきた「日赤緩和ケア病棟」
来年10月20日(土)の記念対談

● 一般市民が参加可能な緩和ケア講演会
(主催 南勢地域緩和ケアネットワーク)
11月12日(土) 9時半〜11時
伊勢観光文化会館 4階会議室 500円
「現代の緩和医療」堀夏樹 医師

患者と医師のズレを、ご自身の母の看取りから、分かりやすくお話頂けると思っています。病院緩和ケア科に従事しながら、在宅医療にも詳しく、10数年以前からインフォームドコンセントの充実や、一般病棟での緩和ケアの推進を考えてこられました。有料ですが、拝聴をお勧めします。

映画エンディングノートご紹介

父親の最期とエンディングノートを見事に映画にした女性監督、砂田麻美さん。12月10日〜11月5日まで進富座で上映。是枝裕和プロデューサーとのトークショーも予定あり。



上映スケジュール

12/10→15	①11:00~12:30 ②15:00~16:30
12/17→12/22	①13:00~14:30 ②19:45~21:15
12/23→1/5	①13:00~14:30
12/30→1/1	は休館

ちょっと驚きニュースですが、進富座が1年後には閉館するとの事です。映画館は単に営利としてではなく、それこそ地域の文化センターです。今まで水野さんの尽力で再開し、続けられているのですが。。。地域医療や在宅ケアと同じく、人としての生活に残って欲しいものが、次々と崩れてゆくようで寂しい限りです。残すための努力を、私たちが日常的に働きかけないといけないということですね。

このファクスが、ご迷惑な場合は、その旨ご連絡をお願いします。